

JAL プロジェクト 2016:

ワークショップ・プレゼンテーション／自己紹介

ヴァレンティナ・フォルミサノ*

皆様おはようございます。私は、イタリアの日本近代美術史の研究者で、Valentina Formisano と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

このたびは JAL PROJECT 2016 にお招きいただき、大変光栄に存じます。実行委員会の皆様ならびに関係者の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

自己紹介・研究主題

私の専攻は日本近代美術で、特に日本とヨーロッパ間の芸術文化交流について関心を持っています。その中でもとりわけ日本洋画について興味を持っています。研究主題は、近代において日本人画家がどのように洋画様式を確立したかについてです。ヨーロッパ美術は日本近代の洋画にどんな影響を与えたのかについて研究を行っています。

私は、イタリアのナポリ東洋大学哲学部アジア・アフリカ言語文化課程で学士号と修士号を取得しました。その後、同大学で東南アジア研究博士課程に進学しました。

ナポリ東洋大学 "Università degli Studi di Napoli L'Orientale" は、18 世紀前半に開講された Collegio dei Cinesi 「中国学院」を前身とします。アジア・オリエント地域の語学・研究に重点を置いた大学としての歴史を持ち、1903 年に日本に関する分野の課程が設けられています。

私は日本語を勉強したいと思い、この大学に入ることにしました。ナポリ東洋大学で、日本語だけではなく、日本の歴史、日本文学、日本美術史等を学習しました。とりわけ、日本美術史の授業を通じて、この国の美術に大変夢中になり、自分の専攻にすることにしました。

学士論文 *Le stampe mitate-e di Suzuki Harunobu* 「鈴木春信の見立絵」では春信の幾つかの見立絵を分析しました。ご存知のとおり、鈴木春信 (1724~1770) は江戸時代 (1603~1867) の代表的な浮世絵師です。

多くの春信の作品は、鑑賞者に主題を読むことを期待しています。今日、見立絵 (みたてえ) と呼ばれているのは、和漢の古典物語

や故事を、江戸時代当時の風俗に置き換えて描くという一種のパロディ的趣向をもった作品群あり、鑑賞者はその原典を当てたり、置き換えの機知に感心したりして作品を楽しんだからです。

修士論文 *Kuroda Seiki e la pittura giapponese in stile occidentale* 「黒田清輝と洋画」では黒田清輝 (1866~1924) と洋画について論じました。

ご存知のとおり黒田清輝は、フランスで学んだ新しい外光表現とリベラルな思考によって、明治中期 (1868~1912) の日本の洋画界のみならず、文芸界に変更をもたらしました。彼の存在は日本の近代洋画のなかでも重要な位置を占めます。そして、黒田の絵画の活動は、東洋と西洋の間で 100 年にわたって起こった異文化交流の典型です。

彼の代表作のひとつであり、もっとも親しまれている作品が、「湖畔」です。

修士課程在籍中に、ナポリ東洋大学から奨学金を受けて、東京の学習院大学に 1 年間留学しました。帰国後、日本で収集した資料を分析して、修士論文を執筆しました。

修士課程修了後、専門的なレベルで日本近代美術に関して研究を行うため、ナポリ東洋大学の博士課程に進みました。博士論文では、20 世紀の日本の画壇におけるイタリアの未来派の影響を分析することとしました。未来派という芸術運動は世界中に普及し、日本にも影響を与えました。未来派の過去への反動と人間の為新しい時代を模索するという希望は、1910~1920 年代の日本人の青年画家達をひきつけて、新興美術を生み出しました。

研究の最も重要な目標の一つは、代表的な未来派の日本人画家による作品の分析を通して、日本における未来派の影響を分析することです。この他の私の研究の目的の一つは、20 世紀における日本とイタリア間の芸術文化交流を考察することです。ご存知のとおり、イタリアと日本には長い芸術文化交流の歴史があり、それは近代においても進んできました。

日本で初めて未来派的絵画を描いた画家が萬鉄五郎 (1885~1927) です。萬の油彩作品「赤い目の自画像」、「風船を持つ女」に未来派の影響が見られます。

*ヴァレンティナ・フォルミサノ (ラファエレ・セレンターノ・アート・ギャラリーキュレーター)

しかし萬より、イタリア未来派ともっとも近い関係を結んだのは東郷青児（1897～1978）です。彼は、1921年から翌年にかけて、フランス及びイタリアにおいてイタリア未来派の創立者であるマリネッティと会っていました。そればかりでなく、未来派展覧会にもメンバーの一員として参加しました。ボローニャでは1月21日にモデルニッシモ劇場で開催された「イタリア未来派美術展」において「髪をすく女」、「歩く女」、「卓上」を、トリノでは3月27日から4月27日まで、サローネ・デル・ウィンター・クラブで開催された「国際未来派展」において「歩く女」、「髪をすく女」がそれぞれ展示されました。また、未来派機関誌「イル・フトゥリズム」第2号（1922年6月1日発行）には「女のダイナミズム」というイタリア名で「パラソルさせる女」と「パントマイム」が掲載されました。

東郷青児がイタリア未来派運動メンバーの一員として、イタリア本国で活動したことは、先ほど述べましたが、彼の名前は未来派展覧会のカタログにおいて確認できます。現在、このカタログはボローニャの市立図書館で保存され、閲覧できます。加えて、イタリア未来派の創立者であるマリネッティは、ボローニャの新聞記事、具体的にはル・レスト・デル・カルリーノで「ボローニャの未来派：マリネッティにインタビュー」（1922年22日発行）という記事の中で、東郷青児の名前を出しています。こうした新聞などの資料は、ボローニャの市立図書館にも保存されています。さらに、未来派の機関誌「イル・フトゥリズム」はヨーロッパ文化雑誌のオンライン目録 Computerized Catalogue of European Cultural Periodicals というイタリアのデジタルデータベースに登録されています。そしてこの「イル・フトゥリズム」の第2号に、東郷青児とイタリア未来派の間で芸術文化交流が行われていたことが確認できます。また、東郷青児の著作『他言無用』の中の「私の履歴書」という章に、イタリアの未来派運動との関係が詳細に書かれています。

博士課程在籍中に石橋財団奨学金をいただき、筑波大学に特別研究生として入りました。2年間の留学の間に、博士論文を書くために日本で研究活動を行いました。筑波大学大学院では、近代美術の研究者である五十殿利治のもとで勉強させていただきました。筑波大学では、研究を行うための素晴らしい環境を感じました。広大な筑波大学附属図書館は美術史を学ぶ学生のために、美術書、様々なアート・ジャーナルをはじめとする、豊富なデータベースを提供しています。

日本滞在中に行った調査研究を通じて、イタリアでは手に入らない貴重な資料を集めることができました。また、帰国する前に日本で行った研究の成果は石橋財団の担当者の前で発表させていただきました。さらに、2014年12月に筑波大学において開催された「日台三大学大学院生美術史研究交流会」に参加して、「東郷青児とイタリア未来派との交流」を Togo Seiji Meets Italian Futurists と題して口頭発表を行いました。この発表は本シンポジウムの報告書にも掲載されています。

博士論文は2016年の3月にナポリ東洋大学にて発表しました。博士号の取得に際し、私は日本語の資料を参考しながら、日本の洋画に関して、具体的には日本の大正期新興美術運動について、学術的なレベルで研究を継続して行いました。その結果、神原泰（1898～1997）と Marinetti の間で行われた芸術文化交流について研究論文が出版される予定です。

私は日本での調査研究滞在期間で、神原泰に関して実証的研究を行うために大原美術館を見学しました。神原泰が収集したイタリア未来派に関する文献・資料は、大原美術館に「神原泰文庫」として保管されています。これは、神原が Marinetti をはじめとするイタリア未来派と交流があったために得ることができた書籍、宣言書、写真、新聞の切り抜きなどで構成されています。また、Marinetti から送られたもののみならず神原自身が収集した文献もあります。

大原美術館の未来派に関する資料の収集は多くの展覧会の準備のための貴重な情報源になっています。例えば1986年のヴェネツィアの Palazzo Grassi で Futurismo e Futurismi という有名な展覧会もその一例です。

今後は、山名文夫（1897～1980）にアール・デコの影響について研究したいと考えております。

JAL PROJECT 2016 が終わってから、私は、このテーマに関する資料探しのため、10日間ほど日本に滞在する予定です。水谷長志先生のアドバイスの元で、東京の広告博物館で資料調査を始めます。

現職

今年の4月からソレント（イタリア）にて Raffaele Celentano アートギャラリー にキュレーターとして働いています。Raffaele Celentano はナポリで生まれた国際的な写真家で、ソレント以外に、ミュンヘン（ドイツ）にもギャラリーがあります。

このアートギャラリーの主な部屋で展示されているコレクションは、「イタリア人」と呼ばれています。主に白黒写真で、25年間にかけて撮影され、イタリアの雰囲気表現されています。この部屋からは、綺麗なテラスにアクセスでき、ここでお客様はいろんな写真を楽しみながら、美しい景色を眺めることができます。アートギャラリーの裏に *Memories in the wind* 「風の中での思い出」というインスタレーションがあります。それはナポリの道と写真家の **DARK ROOM** を思い出されるように立っています。

この仕事は日本近代美術とはあまり関係ないですが、私は美術の一領域として、写真にも大変興味を持っています。

今後は、イタリアに日本美術と日本文化を普及するために、このアートスペースに日本を代表するイベントや展示を企画する予定があります。

JAL PROJECT 2016 に参加する希望動機

このような国際的な研修に参加することにより、日本美術の研究者と司書間の相互交流や情報・意見交換を進めることができると考えております。また、国際的な視野では、研究者と日本美術資料の専門家間の相互協力によって世界中に日本の美術の知識を普及できると考えております。ひいては、相互理解を築くことにより、言葉と文化の壁を破壊できると考えております。この重要な目的を果たすためにも、今回の研修はよい機会になると感じております。また、このような貴重な研修を通じて、日本美術の資料や情報を扱う機関についての見聞を広めることにより、個人研究における調査方法をより深く理解し、今後の研究をより推進できるものと考えております。

ご静聴ありがとうございました。

JALプロジェクト 2016

「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」

Valentina FORMISANO
ギャラリー・キュレーター

formivale@gmail.com

自己紹介・研究主題

専攻は日本近代美術で、特に日本とヨーロッパ間の芸術文化交流について関心を持っています。その中でもとりわけ日本洋画について興味を持っています。

研究主題は、近代において日本人画家がどのように洋画様式を確立したかについてです。ヨーロッパ美術は日本近代の洋画にどんな影響を与えたのかについて研究を行っています。

2

ナポリ東洋大学とは？

ナポリ東洋大学 "Università degli Studi di Napoli L'Orientale (U.N.O.)"は、18世紀前半に開講された Collegio dei Cinesi 「中国学院」を前身とします。アジア・オリエント地域の語学・研究に重点を置いた大学としての歴史を持ち、日本に関する分野の課程が設けられています。

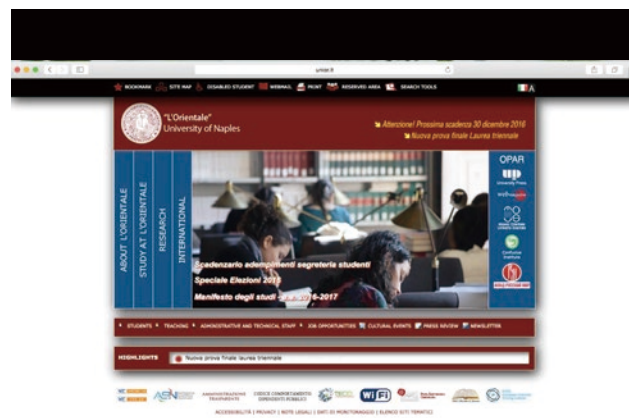


Piazza San Domenicoに位置するPalazzo Coriglianoはナポリ東洋大学の主な建物



ナポリ東洋大学アジア研究学科図書館

3



ナポリ東洋大学ホームページ
www.iuo.it

4

学士論文: Le stampe mitate-e di Suzuki Harunobu 「鈴木春信の見立絵」

今日、見立絵(みたてえ)と呼ばれているのは、和漢の古典物語や故事を、江戸時代当時の風俗に置き換えて描くという一種のパロディー的趣向をもった作品群であり、鑑賞者はその原典を当てたり、置き換えの機知に感心したりして作品を楽しんだからです。

5



鈴木春信
見立菊慈重
1765年

6

修士論文: Kuroda Seiki e la pittura giapponese in stile occidentale 「黒田清輝と洋画」

黒田清輝(1866~1924)は、フランスで学んだ新しい外光表現とリベラルな思考によって、明治中期(1868~1912)の日本の洋画界のみならず、文芸界に変更をもたらしました。彼の存在は日本の近代洋画のなかでも重要な位置を占めます。

7



黒田清輝
湖畔
1897年、黒田清輝記念館

湖畔の背景となった箱根・芦ノ湖の景色

8

修士課程在籍中に、東京の学習院大学に1年間留学しました。



学習院大学ホームページ
www.univ.gakushuin.ac.jp

9

博士論文: La pittura futurista nel Giappone del XX secolo 「20世紀における日本の未来派絵画」

未来派という芸術運動は世界中に普及し、日本にも影響を与えました。未来派の過去への反動と人間の為に新しい時代を模索するという希望は、1910~1920年代の日本人の青年画家達をひきつけて、新興美術を生み出しました。

10

研究の目標:

×代表的な未来派の日本人画家による作品の分析を通して、日本における未来派の影響を分析することです。

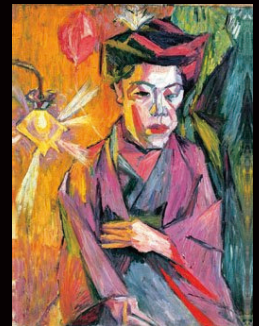
×20世紀における日本とイタリア間の芸術文化交流を考察することです。

11

日本における最初の未来派絵画



萬鉄五郎
赤い目の自画像
1913年、岩手県立博物館



萬鉄五郎
風船を持つ女
1913年、岩手県立博物館

12

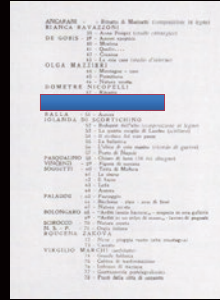
東郷青児はイタリアの未来派展覧会にメンバーの一員として参加しました。



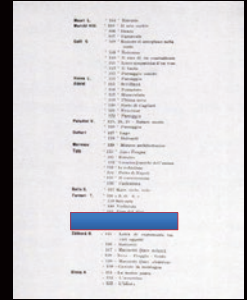
上列右より東郷青児、マリネッティ（1922年、撮影場所不明）

13

ポーロニアでは1月21日にモデルニッシモ劇場で開催された「イタリア未来派美術展」において「髪をすく女」、「歩く女」、「卓上」を、トリノでは3月27日から4月27日まで、サローネ・デル・ウィンター・クラブで開催された「国際未来派展」において「歩く女」、「髪をすく女」がそれぞれ展示されました。



ポーロニア「イタリア未来派美術展」図録の東郷青児のリスト載った頁



トリノ「国際未来派展」図録の東郷青児のリスト載った頁

14

東郷青児は、未来派機関誌「イル・フトゥリズム」第2号（1922年6月1日発行）には「女のダイナミズム」というイタリア名で「バラソルさせる女」と「パントマイム」が掲載されました。



「イル・フトゥリズム」1922年6月1日発行

15



ポーロニアの市立図書館ホームページ
www.archiviodistatobologna.it

16



ヨーロッパ文化雑誌のオンライン目録 (Computerized Catalogue of European Cultural Periodicals) ホームページ
www.circe.leitt.unitt.it

17

博士課程在籍中、筑波大学に特別研究生として入りました。



筑波大学ホームページ
www.tsukuba.ac.jp

18

筑波大学附属図書館は美術史を学ぶ学生ために、美術書、様々なアート・ジャーナルをはじめとする、豊富なデータベースを提供しています。



筑波大学中央図書館

19



石橋財団で発表会
2015年7月



筑波大学において開催された「日台三大学
大学院生美術史研究交流会」
2015年12月

20

神原泰に関して実証的研究を行うために大原美術館を見学しました。神原泰が収集したイタリア未来派に関する文献・資料は、大原美術館に「神原泰文庫」として保管されています。



大原美術館
岡山県倉敷市

21



大原美術館の未来派に関する資料の収集は多くの展覧会の準備のための貴重な情報源になっています。1986年のヴェネツィアのPalazzo Grassiで Futurismo e Futurismi という有名な展覧会もその一例です。

Futurismo e Futurismiの展覧会カタログ

22

今後の研究主題は山名文夫(1897~1980)にアール・デコの影響についてです。



資生堂ルックスソールドクリーム
新聞広告イラストレーション 原画、
1957年



資生堂ルックス化粧品
新聞広告イラストレーション 原画、
1959年

23

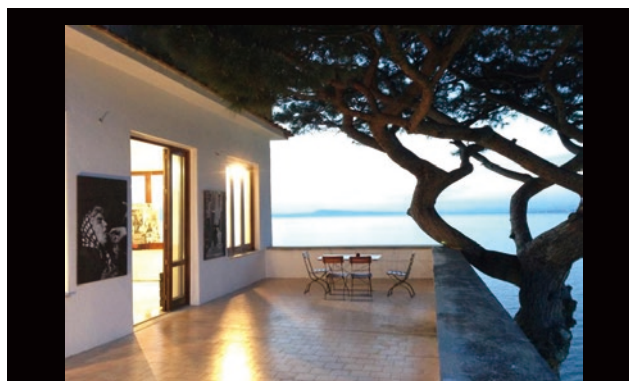
現職:

ソレント(イタリア)にてRaffaele Celentano アートギャラリーにキュレーターとして働いています。



アートギャラリーの主な部屋

24



ギャラリーのテラス

25



ギャラリーの裏のインスタレーション

26

JAL PROJECT 2016に参加する希望動機

国際的な視野では、研究者と日本美術資料の専門家間の相互協力によって世界中に日本の美術の知識を普及できると考えております。ひいては、相互理解を築くことにより、言葉と文化の壁を破壊できると考えております。この重要な目的を果たすためにも、今回の研修はよい機会になると感じております。

また、このような貴重な研修を通じて、日本美術の資料や情報を扱う機関についての見聞を広めることにより、個人研究における調査方法をより深く理解し、今後の研究をより推進できるものと考えております。

27



ご静聴ありがとうございました。

28